

研究・調査報告書

報告書番号	担当
499	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
<p>Macrophage migration inhibitory factor gene -173G>C polymorphism and risk of bladder cancer in southeast China: a case-control analysis.</p> <p>中国南東部におけるマクロファージ遊走阻止因子の遺伝子ファインジャージー> C 多型と膀胱がんリスク：ケースコントロール研究</p>	
執筆者	
Yuan Q, Wang M, Wang M, Zhang Z, Zhang W.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Mol Biol Rep. 2012;39:3109-15.	
キーワード	
MIF、多型、膀胱がん	
<p>要 旨</p> <p>目的： 炎症性因子は発癌促進する可能性がある。T細胞に由来するマクロファージ遊走阻止因子 (MIF) はトランスフォーミング成長因子-β (TGF-β) スーパーファミリーのメンバーとして知られており、感染症に対する抗炎症反応や膀胱癌の病因に重要な役割を果たしている。われわれは MIF-173 遺伝子座の多型が膀胱がんの遺伝的感受性に貢献するかもしれないという仮説を立てた。</p> <p>方法： 病院内ケースコントロール研究によって、膀胱がん患者 345 人とその対照 345 人について年齢、性別、喫煙状態、アルコールの使用によって頻度マッチングを行い、MIF 多型を遺伝子タイピングし、免疫組織化学的染色によって MIF の膀胱癌組織切片を分析した。結果：われわれは GC / CC 遺伝子型を持つ個人は GG 遺伝子型と比べて、膀胱がんのリスクが有意に減少することを確認した (調整 OR =0.57、95%CI : 0.41 から 0.79)。層別化解析で、このリスク減少は高年齢層 (調整 OR =0.56、95%CI : 0.39 から 0.81)、男性 (0.47、0.33 から 0.68)、喫煙 (0.54、0.35 から 0.85)、過去飲酒 (0.44、0.27 から 0.71) で、より顕著であることがわかった。CC / GC 遺伝子型組織と正常および膀胱がんの細胞質と核内の染色陽性の割合は、GG 遺伝子型の膀胱癌組織 (39.1%対 GG と GC / CC 遺伝子型の強い染色が 75.0%のそれより高かった。各々p=0.028)。</p> <p>結論： MIF-ファインジャージー> C 多型は中国南部の人々の膀胱がんの病因に役割を果たしている可能性がある。大規模な研究によってわれわれの調査結果を検証する必要がある。</p>	